青森県立高等学校教育改革推進計画に関する
地区意見交換会（三八地区）における主な意見

令和３年３月９日

目　次

1　三八地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み..... 1

2　全日制課程の学校規模・配置に関する意見..... 2

（１）重点校・拠点校・地域校の配置等..... 2

（２）委員の意見に基づく学校配置シミュレーション..... 3

ア　全ての学校を配置する場合..... 3

イ　三戸高校と名久井農業高校を統合して新設校を配置する場合..... 5

（３）その他の意見..... 7

3　定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見..... 9

4　多様な教育制度に関する意見..... 9

（１）全国からの生徒募集..... 9

（２）その他の教育制度..... 12

5　その他..... 12

【参考１】委員名簿（三八地区）..... 13

【参考２】オブザーバー名簿（三八地区）..... 14

【参考３】地区意見交換会の開催状況（三八地区）..... 14

1　三八地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み

		東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
中学校卒業者数	R4	2,492 人	985 人	2,112 人	1,583 人	578 人	2,418 人	10,168 人
	R9 (対R4)	2,216 人 (△276)	824 人 (△161)	1,935 人 (△177)	1,486 人 (△97)	464 人 (△114)	2,262 人 (△156)	9,187 人 (△981)
	R14 (対R4)	*1,942 人 (△550)*	*752 人 (△233)*	*1,727 人 (△385)*	*1,413 人 (△170)*	*405 人 (△173)*	*2,020 人 (△398)*	*8,259 人 (△1,909)*
募集学級数	R4	46cl	19cl	39cl	33～34cl	13～14cl	39cl	189～191cl
	R9 (対R4)	42cl (△4)	16cl (△3)	36cl (△3)	30～31cl (△3)	10～11cl (△3)	36cl (△3)	170～172cl (△19)
	R14 (対R4)	*37cl (△9)*	*14cl (△5)*	*33cl (△6)*	*28～29cl (△5)*	*9～10cl (△4)*	*32cl (△7)*	*153～155cl (△36)*

※　中学校卒業者数は、令和２年５月１日現在の児童生徒数を基に高等学校教育改革推進室において各年３月の生徒数を推計したものであり、変動が生じる可能性がある。

※　募集学級数は、各年度の全日制課程における見込み。

※　募集学級数は、地域校の配置に関して基本方針に基づき入学状況等により対応することから、幅を設けて示している。

※　令和１４年度の中学校卒業者数等については、第２期実施計画の学校規模・配置を検討するための参考として示している。

■　令和４年度時点の学校配置状況

学校・学科		年度等	第１期実施計画(H30～R4) 期間内増減	第１期実施計画(H30～R4) R4学級数	第２期実施計画(R5～R9) 期間内増減	第２期実施計画(R5～R9) R9学級数	第３期実施計画(R10～R14) 期間内増減	第３期実施計画(R10～R14) R14学級数	備考
重点校	八戸高校	普通	0	6					
	八戸東高校	普通	0	5					
		表現	0	1					
	八戸北高校	普通	0	6					
	八戸西高校	普通	1	5					
		スポーツ科学	0	1					
	三戸高校	普通	△1	1					
	五戸高校	普通	△2	0	―	―	―	―	R2募集停止 R3年度末閉校
地域校	田子高校	普通	△1	0	―	―	―	―	R2募集停止 R3年度末閉校
	名久井農業高校	農業	△1	2					
	八戸水産高校	水産	0	3					
拠点校	八戸工業高校	工業	△1	6					
	八戸商業高校	商業	△1	3					
計			△6	39	**△3**	36	△4	32	

２　全日制課程の学校規模・配置に関する意見

（１）重点校・拠点校・地域校の配置等

①　重点校・拠点校

○　様々な取組や他校との連携により役割を果たし、成果を上げていることから、重点校、拠点校ともに継続して良い。

○　重点校及び拠点校が実施する教育活動への各高校の生徒の参加や学習成果の共有等の取組は評価できる。各高校の連携を一層強化することが重要である。

○　重点校・拠点校という名称については、誤解を生む可能性もあるため、十分な説明が必要である。また、重点校と拠点校の連携も効果的である。

○　重点校及び拠点校の役割や成果について、中学生やその保護者に対する更なる広報活動を期待する。

②　地域校

○　地域校に指定されている田子高校が閉校となると、三戸郡には地域校がなくなる。三戸郡は山間部で通学のための交通が不便な地域が多く、その観点からも三戸高校は地域校的な役割を担う普通高校として存続をお願いしたい。

○　三戸高校を存続させるため、地域校として設置し特色ある小中一貫の三戸学園と三戸高校が一体となり、更に教育改革を進めることで特色ある学校を作っていくべき。

○　三戸町が通学支援等を行った上で、募集停止の基準に該当したら再編すると示された方が町や地域が協働して取り組んでいく体制ができ、この地域の高校教育の機会の確保につながるので、町や地域が努力し生徒数を確保すれば高校が存続する形にしてほしい。

○　三戸高校について、小中高連携した１２年間の教育活動により成果を上げていること、国において普通科再編を検討していること、三戸郡内はもとより八戸市や岩手県北からも入学生があり広域的な普通科の受け皿となっていることを踏まえ地域校として配置すべき。

○　三戸高校を地域校にすることによって、三戸・田子・南部地域の生徒は通学が可能となり、一定程度の地域による教育の機会均等が保たれる。

○　三戸高校が地域校となり将来的に募集停止になってしまうと、三八地区全体を見た場合に高校の配置バランスが問題になる。

○　入学者数の減少によって募集停止することにならないよう、地域校となる高校による選ばれる魅力づくりへの努力と、県による支援が必要である。

○　生徒や保護者にとって通学に係る時間的・金銭的負担が大きくなり過ぎないよう、地域校の配置や、遠距離通学をせざるを得ない場合の学生寮の整備及び交通費補助等の支援が必要である。

○　地域校の配置は当該地域住民にとっては重大な案件のため、丁寧な進め方が望まれる。

（２）委員の意見に基づく学校配置シミュレーション

ア　全ての学校を配置する場合

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th>第１期実施計画</th><th colspan="2">第２期実施計画</th><th>第３期実施計画</th></tr>
<tr><th>Ｒ４（期間内最終年度）</th><th colspan="2">Ｒ５～Ｒ９</th><th>Ｒ１０～１４</th></tr>
<tr><td>重点校
拠点校
連携校</td><td>八戸
６学級
八戸工業
６学級
八戸東
普通科５学級
表現科１学級
６学級
八戸北
６学級
八戸西
普通科５学級
スポ科１学級
６学級
名久井農業
２学級
八戸水産
３学級
八戸商業
３学級</td><td>△2学級
→</td><td>八戸
〇学級
八戸工業
〇学級
八戸東
普通科〇学級
表現科〇学級
〇学級
八戸北
〇学級
八戸西
普通科〇学級
スポ科〇学級
〇学級
名久井農業
〇学級
八戸水産
〇学級
八戸商業
〇学級</td><td rowspan="3">△４学級</td></tr>
<tr><td>小計</td><td>３８学級</td><td>△2学級
→</td><td>３６学級</td></tr>
<tr><td>地域校</td><td>三戸
１学級</td><td></td><td>三戸
１学級</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>３９学級</td><td>△2学級
→</td><td>３７学級</td><td>３３学級</td></tr>
</table>

※　統合や学級減等の対象となりうる学校については、学級数を「〇学級」と示している。

※　統合や学級減等については、実施計画期間のいずれかの年度に実施する。

※　地域校については、基本方針に基づき入学状況等により対応することから、地域校を配置する場合は第２期実施計画期間の期間内増減数を△３学級から△２学級としている。

①　シミュレーションの基となった意見

〇　ＰＴＡの立場としては、これからも人口減少が進んでいく中で、三八地区の全ての高校の存続を希望する。

②　期待される効果等

○　効果については、通学しやすいことや、教員が生徒一人一人に対し丁寧できめ細やかな指導ができることが挙げられる。三戸高校が存続すれば、公教育の機会均等が図られることや県立高校空白地の拡大を防ぐことにつながる。

○　地域で育った子どもたちが地域を支える人材となり、将来的な地域活性化が期待できる。

○　今後の人口減少に当たって、地元の高校が地域と連係しながら学べる環境等を用意し、できる限り地域の中学生の選択肢が広がる形にしてほしい。

③　更に検討を要する課題等

○　教員数が減少するため履修できる教科・科目が限定されることや、生徒数も減少するため学校行事などの諸活動が制限されることが挙げられる。また、将来的には定員割れが懸念される。

○　今後も少子化が進行する中で小規模校だけが残ったとすれば、教員数も減少し教育活動も狭められるため、教員の視点では一定規模を有する高校で勉強させたい。

○　それぞれ個性や能力等を持った子どもたち一人一人が、自分に合った高校を選択していくためには、普通高校、多様な専門高校がバランス良く配置されていることが大切である。この点を前提に学校配置を検討する必要がある。

○　学級減の対象の検討にあたり、５年平均定員充足率は大事な数字であり、保護者や生徒の志望の表れである。

○　専門学科は地域産業に直接関わりがあることを考慮する必要があるが、八戸商業高校は進学率が高く、普通高校から大学進学することも考えられることから学級減の対象としても良い。

○　名久井農業高校は、教員１人当たりの負担が増加することにより、生徒の多様な進路希望に応じた指導が難しくなる課題がある。世界に認められる研究成果を挙げていることもあるため、現状の学級数の維持を強くお願いしたい。

○　八戸水産高校、八戸商業高校、名久井農業高校は、地域の基幹産業を学ぶことができる高校であり、第１期実施計画において１学級減となったばかりであるため、現状の学級数の維持をお願いしたい。

○　八戸西高校は一昨年まで普通科４学級、スポーツ科学科１学級であったが、五戸高校の募集停止に伴い普通科が１学級増えたことや、今後の生徒数減少を考慮すると、八戸西高校普通科は学級減の対象と考えられる。もう１学級減については、八戸北高校、八戸東高校が対象となると考えるが、地理的な条件や志望状況等を基に検討することになるのではないか。

○　八戸西高校普通科の学級減については、同科の志望倍率が例年高い数値で推移していることや、五戸高校の募集停止に合わせ１学級増やしたことを考慮し、慎重に検討してほしい。

○　現状の志望状況を踏まえると、郡部の高校については定員割れが懸念されることから、選択される魅力づくりが重要である。

○　人口減少は明らかであるため、将来的には統廃合や募集停止を見据えた、より長いスパンで計画を考えていく必要がある。

イ　三戸高校と名久井農業高校を統合して新設校を配置する場合

<table>
<tr><th></th><th>第１期実施計画</th><th colspan="2">第２期実施計画</th><th>第３期実施計画</th></tr>
<tr><th></th><th>Ｒ４（期間内最終年度）</th><th colspan="2">Ｒ５～Ｒ９</th><th>Ｒ１０～１４</th></tr>
<tr><td>重点校
拠点校
連携校</td><td>八戸
６学級
八戸工業
６学級
八戸東
普通科５学級
表現科１学級
６学級
八戸北
６学級
八戸西
普通科５学級
スポ科１学級
６学級
八戸水産
３学級
八戸商業
３学級
三戸
１学級
名久井農業
２学級</td><td>△3学級
→</td><td>八戸
〇学級
八戸工業
〇学級
八戸東
普通科〇学級
表現科〇学級
〇学級
八戸北
〇学級
八戸西
普通科〇学級
スポ科〇学級
〇学級
八戸水産
〇学級
八戸商業
〇学級
新設校
普通科１学級
農業科２学級
３学級</td><td>△４学級</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>３９学級</td><td>△3学級
→</td><td>３６学級</td><td>３２学級</td></tr>
</table>

※　統合や学級減等の対象となりうる学校については、学級数を「〇学級」と示している。

※　統合や学級減等については、実施計画期間のいずれかの年度に実施する。

①　シミュレーションの基となった意見

〇　三戸高校と名久井農業高校について、定員充足率の状況から、いずれ両校の存続が難しくなることも考えられる。本意ではないが両校の統合も視野に入れてシミュレーションを考える必要がある。

②　期待される効果等

○　保護者としては、多くの子どもたちの中で高校教育を受けさせたい。

○　新設校に教員が多く配置されることで専門的な学習が可能になり、生徒数が増加することで学校行事などの諸活動や部活動等が活発になる。また、生徒の多様な進路志望にもある程度対応できる。

○　鉄道沿線内に１校でも高校が残ることは、地域住民にとっても心強く、また農業地域という特性から、農業高校が維持されることは地域活性化にもつながる。

③　更に検討を要する課題等

○　２校を統合し既存校舎を活用して新設校を設置する場合、いずれの校舎を使用するとしても県立高校の空白地が更に大きくなり、地元の高校への通学よりも距離や時間が長くかかる。また、三戸町の普通科を志望する生徒が八戸市内の高校を選択することにつながりかねない。それぞれが選ばれる魅力ある高校となるよう、これまで以上に努力していくことが良い。

○　三戸高校と名久井農業高校はそれぞれ地域が一丸となって学校運営に協力し、独自の教育活動を実践してきた。地域の大きな声援や後押しがないと、新校舎による魅力ある学校の設置はできないため、それぞれ単独で残すことが現実的であり、統合を急ぐ必要はない。

○　多人数の中で教育を受けることで、学力向上、人格形成などはしやすいが、小規模で手厚い教育を必要とする生徒もいるので、バランスが重要である。

○　名久井農業高校及び三戸高校の教育内容等の違いが大きいことや、これまでの地元自治体との関わり方が異なることを考慮する必要がある。

○　三戸高校には三戸郡はもとより八戸市、さらには岩手県北から入学者がおり、普通科希望者の広域な受け皿となっている。国の高校教育改革による新しい普通科の教育制度の考え方からも、三戸郡に普通科の高校を残してほしい。

○　三戸高校が１学級になっても、高校の魅力化等に地域が協力しながら支援していくことで、定員割れは改善していく。名久井農業高校においては、水の研究で世界一になったことを積極的にＰＲしていくことで、生徒数を確保できる。

○　校舎を新設する場合、２校のこれまでの特色ある教育活動を継続することで、地元生徒の普通科への進学が保証され農業科も存続できると思うが、各校の所在する町が異なるため、新校舎の建設場所が課題となる。

○　新設校に新たな投資をして、設備を導入したり新校舎を建てたりすることで、全国からの生徒募集の導入も含め、生徒の新設校に対する期待感が高まる。

○　農場の整備を考慮すると、名久井農業高校の校舎を使用することになる。

○　校舎制とし、現存の各校舎を活用することが考えられる。

○　富山県の統合事例のように、統合校に総合選択制を導入することが考えられる。

（３）その他の意見

＜充実した教育環境の整備＞

○　ある程度の学校規模は必要だが、規模にとらわれて、画一的な高校教育改革にならないようにお願いしたい。

○　小規模校と大規模校では教育効果が大きく異なる。地域の事情等を考えながら、３学級以下や地域校も含めて学校配置を考える必要がある。

○　コロナ禍でテレワーク等、インターネットやパソコンを活用した働き方が出てきたが、学びにおいてもＩＣＴを活用し、学校規模の標準より学級数が少なくても充実した学びが得られることも考えながら検討を進めるべき。

＜地域の実情への配慮＞

○　新郷村内の中学生のほとんどが八戸市内の高校へ進学している状況にある。生徒数は３年生だけで２０人弱であるが、各々が進路希望を持って学習しているため、子どもたちの希望が叶うような高校教育改革をお願いしたい。

○　小さい自治体では高校がなくなると盛り下がり、町の衰退にもつながる。三戸や田子地域においても地域おこしが活発になっており、高校再編も連動し、自治体と連携して小規模でも良いのでその地域にしかできない高校再編を考えられないか。

＜学級編制の弾力的な対応＞

○　新学習指導要領に対応した教育環境の整備・充実のため、オンライン学習ができる環境整備や少人数学級編制などをお願いしたい。

＜学科等＞

○　本県の人材マネジメントを考える上で、高卒者でも将来に対し大きな展望が持てるような魅力ある学科の創設が重要な課題である。社会における人材リサーチ、高校３年間で達成できる「社会即戦力科」ともいうべき人材育成の教育課程の編成、本県の将来的な人材不足を見据えた人材育成のコストパフォーマンスを高める思考が必要である。

○　三八地区にも高校に進学してから自分が進みたい道を選べる総合学科の高校があっても良い。

＜その他＞

○　新型コロナウイルス拡大の影響により、ＩＣＴを活用した授業が注目され、小中学校では急速に進められようとしている。将来構想検討会議答申において、「遠隔授業等について、研究を進める必要がある」とされており、導入による学校連携の推進ひいては小規模校の教育活動の充実につながることが期待される。

○　三八地区は中学校卒業者数に見合う募集学級数となっていないため、今後の高校教育改革において、県全体での枠組みで募集学級数を検討してほしい。

○　今後、学級減や統廃合の対象となる高校が所在する市町村に対しては十分に寄り添い、一層丁寧に対応していただきたい。

○　三戸郡において「地域を支える人財の育成」は大変重要である。五戸高校の募集停止による影響が見られることから、三戸郡の高校について、引き続き地域や社会を支える人財を育成する高校として存続できるようお願いしたい。

○　中学生や保護者のニーズに応じた結果かも知れないが、郡部の高校が統廃合で少なくなり、結果的に市部に偏っているため、最低限、三戸郡に高校を残してほしい。

○　子どもたちの多様な教育を受ける機会を設けるため、八戸水産高校、八戸商業高校、名久井農業高校は学校規模の標準を満たしていないが存続させてほしい。

○　三戸町では小中一貫教育に取り組んでおり、小中一貫９年間と高校３年間を結んで小中高１２年間で三戸町の児童生徒を育む教育を進めるため、三戸町内の全ての小中学校と三戸高校で連携協定を行っているところ。このため、第２期実施計画において三戸高校の存続を強く要望する。

○　三戸高校の第一次志望倍率の状況を踏まえると、小中一貫教育の三戸学園との連携協定等を生かしながら、選ばれる三戸高校になることができるかが課題になる。

○　三戸郡の基幹産業は農業であり、名久井農業高校はこの地域にとって大切な高校である。また、三戸高校ではＩＣＴを活用し、地域と連携しながら社会に通用する力を身に付ける「みらい探究コース」を来年度から設ける予定となっている。これらを踏まえ、できれば三戸郡に専門高校１校、特色ある普通高校１校を残してほしい。

○　名久井農業高校は水資源に関する研究で世界一となったことが報道されたように顕著な研究成果を上げていることから、今後も存続してほしい。

○　学校配置を検討する際、複数の校舎の利用や単位制の導入、複数の学校間での兼務発令等を検討することが必要である。

３　定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

○　八戸中央高校は三部制の定時制としてニーズがあり、地域には必要な学校である。また、通信制は高校生活を再スタートする学校としての意義がある。今後も三八地区に定時制・通信制高校を残してほしい。

【参考】第１期実施計画における配置状況

定時制課程	八戸中央高校（普通科・３学級） 八戸工業高校（工業科・１学級）※令和３年度募集停止
通信制課程	八戸中央高校（普通科）

４　多様な教育制度に関する意見

（１）全国からの生徒募集

①　導入の必要性等

○　導入により県内生徒の募集人員の減少が危惧される一方で、第一次産業の担い手候補が進学または進学を検討する際の選択肢の一つになるのであれば、将来的には有意義なことである。

○　多くの県で導入しており、導入効果からも県内生徒・県外生徒ともに切磋琢磨し成長できる機会になることが期待できる。地元自治体の協力なしに進めることは困難であるため、希望する自治体があれば早急に認めて進めてほしい。将来的には、県内生徒の中で地元の魅力に気づき県内に留まる人の増加、県外生徒の中で県内に留まる人や青森県の魅力を発信する人が育成されることを期待している。

○　他県が積極的に進めているため、本県生徒の他県への流出につながりかねないことから、生徒の生活環境の確保等の様々な課題はあるが、導入を進める必要がある。

○　全国から生徒が集まることで、学習面やその他の教育活動が刺激となり、多様な活動や研究ができる。また、県外から保護者が来県すれば、宿泊や地元産品の購入等により、経済的な効果が生まれる。

○　他県からの生徒の入学により、本県生徒にとって良い刺激となるほか、例えばスポーツ分野での総合的なレベルアップや農・水産従事者の後継者育成・定住につながるなどの効果が考えられる。

②　導入範囲・方法

○　特色ある教育活動を行っている高校（百石高校・名久井農業高校）、青森県の強みである農業科・水産科を有する高校（五所川原農林高校、三本木農業高校、八戸水産高校）は効果が期待できる。

○　職業教育を主とする専門学科を有する高校以外において、八戸西高校のスポーツ科学科に導入しスピードスケート選手の強化育成を、八戸東高校表現科に導入しオリンピック種目にもなっているダンス分野に特化した生徒の育成などが考えられる。

○　職業教育を主とする専門学科に限り導入するか、地域活性化策と併せて地域に根差した教育活動を特色とし、在学中・卒業後のメリットを打ち出すなどして、本県の高校で学びたいと思うような魅力を発信する工夫が必要である。

○　名久井農業高校には寮が完備されており、また、水資源に関する研究で世界一となっているので、研究活動に取り組みたい生徒がいれば受け入れられるようにした方が良い。南部町では、名久井農業高校に導入されるのであれば、補助を検討する必要があると考えている。

○　県外生の受入先として、名久井農業高校の寮を活用するほか、南部町の空き家バンク等により生活環境の提供に対応できると考えており、名久井農業高校と南部町が一体となってＰＲしたい。一方で、保護者の経済的負担が大きいことから、県外からの募集に不安がある。

○　名久井農業高校において導入する際、ＳＤＧｓや水資源に関する研究を前面に打ち出す形で現在の教育課程を見直し、名久井という名称を残しながら、イメージアップにつながるよう校名を変更することが考えられる。名称を変更することで生徒の農業に対するイメージが変わり、八戸市内からも生徒を呼び込める。

○　八戸水産高校は他県に数少ない専門性の高い高校である。三八地区の生徒の進学希望を狭めることにならないよう制限を設けて募集を行えば良い。その他は私立高校に任せれば良い。

○　三戸高校及び名久井農業高校は、それぞれの特色を全国に発信しながら、全国から生徒を呼び込むことも考えられる。

○　三戸高校が地域校となるならば、生徒数確保の一つの手段として、三戸高校の特色を全国に向け発信しながら導入してはどうか。

○　スポーツ関係で他県へ進学している事例はたくさんあり、逆に本県においてもスポーツ関係で他県から生徒を受け入れてはどうか。

○　八戸市のスケート環境が飛躍的に整備され、全国的に見てもトップレベルの環境であれば、例えば八戸西高校においてスピードスケート選手、八戸工業高校や八戸商業高校においてアイスホッケー選手を募集することも考えられる。生徒の生活環境については、優良企業等と連携し、ホテルを借上げることや使用していない宿泊施設等の利活用も考えられる。

○　本県全ての高校を対象とした場合、本県生徒の県立高校進学希望及び合格率への影響が懸念されるため、生徒募集の導入範囲や方法に制限が必要である。

○　学生寮や下宿など県外生徒の生活環境が課題である。

③　県全体の意見まとめ（参考）

■　導入範囲・具体的な高校例・効果等

導入範囲	具体的な高校例	効果等
特色ある教育活動を行っている高校（学科）	弘前南 柏木農業 黒石（情報デザイン科） 百石（食物調理科） 八戸西（スポーツ科学科） 八戸東（表現科） 名久井農業	○　特色ある学科や研究活動等の実施により、県外からの入学者が期待できる。
職業教育を主とする専門学科を有する高校	農業科、水産科、工業科、商業科、家庭科、看護科を有する高校	○　本県の地域資源等を活用した特色ある教育活動を実施しており、入学者が見込まれる。
職業教育を主とする専門学科を有する高校のうち、寄宿舎を有する高校	五所川原農林 三本木農業 名久井農業 八戸水産	○　県内生徒の使用に支障を与えずに県外生徒が活用できれば、生活環境が確保される。
地域校の配置の考え方に該当する高校	鰺ヶ沢 六ヶ所 大間 三戸	○　入学者数の確保につながることが期待できる。
他県から注目度の高い部活動を有する高校	浪岡（バドミントン部） 三本木農業（相撲部） 八戸工業（アイスホッケー部） 八戸商業（アイスホッケー部）	○　スポーツで生徒を育てることも大きな特色であり、入学者が見込まれる。

■　更に検討を要する課題等

区分	更に検討を要する課題等
募集人数等	○　県内生徒のニーズや学習機会を確保するため、県外生徒の定員の制限（募集枠の設定等）を考える必要がある。 ○　単年度留学などの制度を導入してはどうか。
生活環境等	○　県外生徒が安心して学校生活を送れるよう、生活環境を確保する必要があり、宿泊施設や生活面の支援を市町村がどれだけバックアップできるかが課題となる。 ○　導入する場合、県としても支援（ホームページやパンフレットによる広報等）が必要である。 ○　生活環境を確保するため、「空き家バンク」等の活用やホテル・宿泊施設等の活用も考えられる。 ○　地域によっては、下宿施設数が減少している状況がある。
高校の魅力づくり	○　県外生徒を呼び込むためには、魅力ある教育活動が求められる。他県の事例等も参考にしながら検討する必要がある。 ○　教育活動の充実に向けた教育課程の見直しや特色ある学科の設置等を検討してはどうか。 ○　地域資源等を活用して魅力をアピールすることが考えられる。 ○　県外生徒の受入に向け、高校を含めた地域全体で考えられるよう話し合いの場があっても良い。

（２）その他の教育制度

○　重点校に併設型中高一貫教育を導入することについて、キャリア教育の視点から６年間を見通して、生徒一人一人の個性や能力を伸長する効果を上げることが期待できるが、中学受検による経済格差や教育格差を生じることが懸念される。本県で導入済みの三本木高校と附属中学校について、メリットとデメリットを十分に検証した上で検討をお願いしたい。

○　高校教育を受ける機会の確保については、各高校の特色を前面に出し、地理的環境にも配慮した進め方を希望する。三八地域は総合学科やくくり募集等の制度の導入が進んでいないように感じる。また、教育環境の整備について、予算確保とともに学校裁量の拡充も必要である。

５　その他

＜生徒の通学＞

○　高校再編が進むと、子どもの通学が困難な地域が生じる。公共交通機関の利用にも限りがあるため、市町村と連携してスクールバスの運行を検討、または、遠方からの通学者が多い高校は寮を完備する等の対策が必要である。

○　県で令和２年度から取り組んでいる高等学校奨学金通学費等返還免除制度について、更なる周知が必要である。また、この制度について、要件を緩和してほしい。

○　統廃合することによって、通学が困難な生徒が出てくるため、通学費の補助等の検討やバスや電車の公共交通機関などの整備が必要である。

○　各自治体において通学費の負担を検討しているようだが、八戸市内の生徒を三戸郡へ呼び込むためにスクールバスを出すことなどが考えられる。

○　高校への通学を支援する制度があれば家庭が助かるが、地元である三戸郡の高校ではなく八戸市内や二戸市内の高校に入学する生徒も多くなる可能性がある。

＜その他＞

○　もっと分かりやすい形で各校の魅力化を進めていくことが大きなテーマになる。また、現在様々な課題を抱えている高校は、世間のイメージを良い意味で大きく払拭することに取り組む必要がある。

○　県立高校は県教育委員会とより一層連携しながら、学校の魅力づくりをしていく必要がある。

○　特色や魅力ある高校づくりにより、生徒数を確保する取組を市町村とともに実施してほしい。

○　少子化、人口減少が加速しているため、統廃合はやむを得ないが、もっと地元や生徒・保護者の意見を聞く機会があれば良い。

○　募集停止等の情報が公になると、保護者はその報道や発表に応じて、自分の子どもたちの将来を前もって決めてしまうこともあるので、発表については極めて慎重にしてほしい。

【参考１】委員名簿（三八地区）

（敬称略）

区　分	所　属　等	委　員　名	備　考
市町村教育委員会	八戸市教育委員会　教育長	伊　藤　　博　章	
	三戸町教育委員会　教育長	友　田　　博　文	
	五戸町教育委員会　教育長	澤　田　　尚	
	田子町教育委員会　教育長	宇　藤　　裕　夫	
	南部町教育委員会　教育長	高　橋　　力　也	
	階上町教育委員会　教育長	丸　岡　　博	
	新郷村教育委員会　教育長	岡　田　　稔	
ＰＴＡ	八戸市連合ＰＴＡ　会長 （八戸市立第三中学校ＰＴＡ　会長）	石　橋　　伸　之	
	三戸郡連合ＰＴＡ　会長 （南部町立杉沢小中学校ＰＴＡ　会長）	小　橋　　良　和	
	青森県高等学校ＰＴＡ連合会 三八地区協議会　会長 （県立名久井農業高等学校ＰＴＡ　会長）	野　田　　尚　志	
産業界	八戸商工会議所青年部　理事	中　野　　正　信	
	三八地区商工会青年部連絡協議会　会長 （三戸町商工会青年部　部長）	武士澤　　勝　利	
小中学校長会	八戸市小学校長会　会長 （八戸市立根城小学校　校長）	今　井　　裕　一	
	三戸郡小学校長会　会長 （五戸町立五戸小学校　校長）	三　浦　　勉	
	八戸市中学校長会　副会長 （八戸市立根城中学校　校長）	木　村　　一　夫	
	三戸郡中学校長会　会長 （五戸町立五戸中学校　校長）	米　田　　清　治	
	青森県私立中学高等学校長協会　会長 （八戸聖ウルスラ学院高等学校　校長）	里　村　　智　彦	
	元県立八戸高等学校　校長	久　慈　　惠　司	進行役
	元県立名久井農業高等学校　校長	髙　谷　　正	

【参考２】オブザーバー名簿（三八地区）

（敬称略）

所　属　等	オブザーバー名	備　考
県立八戸高等学校　校長	一　戸　　利　則	
県立八戸東高等学校　校長	黒　坂　　孝	
県立八戸北高等学校　校長	佐　藤　　昭　雄	
県立八戸西高等学校　校長	渡　辺　　学	
県立三戸高等学校　校長	冨　田　　義　明	
県立五戸高等学校　校長	清　川　　和　幸	
県立田子高等学校　校長	小　野　　淳　美	
県立名久井農業高等学校　校長	浅　利　　成　就	
県立八戸水産高等学校　校長	福　嶋　　信	
県立八戸工業高等学校　校長	瀬　川　　浩	
県立八戸商業高等学校　校長	久　保　　敬悦朗	
県立八戸中央高等学校　校長	高　橋　　英　樹	
県立八戸高等支援学校　校長	大　崎　　光　幸	

【参考３】地区意見交換会の開催状況（三八地区）

回	年月日	内　容
1	令和2年 9月10日	○　高等学校教育改革に係る経緯・現状等 ○　学校規模・配置の検討 ○　多様な教育制度等
2	令和2年12月17日	○　地区意見交換会委員の意見に基づく学校配置シミュレーションにおいて想定される効果・課題等 ○　全国からの生徒募集の導入範囲と効果・課題等
3	令和3年 2月 9日	○　地区意見交換会における主な意見≪整理案≫